

平成 26 年 6 月 4 日

岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

日 時 平成 26 年 6 月 4 日（水）14:30～16:30
場 所 岸和田市立産業会館 大会議室
出席者 （委員）
鶴坂委員長 藤田副委員長 伊藤委員 入野委員 植野委員 浦山委員
川島委員 田中委員 土井委員 永谷委員 永野委員 松下委員 柳曾委員
（事務局）
小山部長 杉本理事 牟田課長 和田商工担当長 藤浪
中浜観光振興担当主幹 原農林水産振興担当主幹
（アルパック）
高田 片野

協議内容

- （委員長） 本日はプランで取り組む内容の大きな方向性を決める。事務局の考え方をもう一度ご説明頂きたい。
- （事務局） 主な取り組み施策のセーフティーネットについては、プランの見直しにかかわらず継続する。岸和田市産業の同業種・異業種の連携を強化していく。そのために場の設定、コーディネーター派遣、人材育成支援を実施する。異業種交流会は見直しの対象となっているが、今後強化していきたい。また、企業誘致促進助成（阪南 2 区、丘陵地区）、空き店舗対策など商店街の活性化、セミナー実施、展示会出展支援等などを実施する。
- （委員長） 同業種・異業種の連携を強化していくことを意識し、場の設定、コーディネーター派遣、人材育成などを行っていくという基本的な考え方について、企業の代表者あるいは個人の立場から意見を挙げてほしい。
- （委 員） 阪南 2 区と丘陵地区以外の地域にも、エリアを限定せずに企業誘致の優遇措置を行ってほしい。M&A や事業の拡大のための土地取得を促し、意欲的な企業を誘致するためには、場の設定だけでは力不足である。商店街活性化事業も、根本的には周辺地域が高齢化していることが課題であり、規制緩和などで企業をひきつけることが必要だ。セーフティーネットは赤字補てん融資制度等のイメージが強いが、戦略プランでは創業や経営革新に対する相談や融資を考えていくべきだ。

- (委員長) 市が戦略的に企業誘致をすること、商店街の活性化支援事業は一過性のものではなく根本的な課題に取り組むこと、セーフティーネットはネガティブなイメージだが積極的なチャレンジをする企業への融資制度を作ること、以上のご意見であった。総論は賛成で各論プラスアルファであったと理解した。他の委員も市の担当者が訪問した際に話した内容を共有してほしい。田中委員はどのようなご意見か。
- (委員) 主な取り組み施策に異論は無いが、柳曾委員のご意見と共通するところがある。現在地方金融機関は、少子化・高齢化による預金の減少の中で、5～10年後にも生き残る、新たなモデルを作ることが課題となっている。市の施策も、人口減少時代においては、今までの改良ではパワーダウンするのではないか。産業競争力強化法や特区制度などの国の制度を大胆に利用し、魅力的な緩和策をとるなど、一歩進んだ取り組みがあればよい。
- (委員長) 今のご意見も基本的方向性は賛成であり、プラスアルファで人口減少時代にはパンチの利いた取組みをやってはどうかというご意見を頂いた。
- (委員) 岸和田の企業は経営力が弱い会社が多い。コンビナートにある企業は色々な意見を持っているが、これらの意見を市がどう掬い上げるかは非常に難しい問題だ。さらにコンビナートの構成員は多様で、コンビナートとして意見を出すのか、木材業界として出すのが難しい。前回発言したように岸和田の人が仕事に根付かないという問題もある。基本的な大筋に異論はないが、本格的に活性化していくのであればもっと大胆な施策が必要だ。一方で、そのことをあまり言っても行政では取り組めないのではないかなと思う。
- (委員長) 同感である。現行プランにおいて一定の絵が描いてあるので、あまり過激なことはできないが、私もさじ加減がよくわからない。岸和田ならではのひねりを効かせたアクションプランを作り、岸和田モデルとして岸和田のオリジナルな面を打ち出すことはできる。
- (委員) 市の基本に異論はない。場を設定して情報を得た際に、市が一步突っ込んでコーディネーター役を担い、頑張ろうという企業と、事業を畳もうとしている企業のマッチングをしてほしい。市の介入は安心感がある。意欲のある事業者がより発展することを支援する方が施策の有効性も高い。コーディネーターの「派遣」ではなく、もう一步突っ込んで取り組んでほしい。
- (委員長) 事業者の視点からのご意見を頂きたい。
- (委員) みなさんと同じ思いで、頑張っている所を応援して頂きたい。商店街活性化

支援事業を「継続」としているが、どのような事業となり、予算はつづのか。イベントは一過性のものであることは認識しているが、まずは実行が大事であると取り組んでいる。一方で、長期的な施策が必要なところだ。

(委員長) 八尾市では産業振興会議で事業者や市民が議論し、施策を市長へ提案する仕組みがある。岸和田市には中小企業振興条例はあるが、集まって意見を交わす場が無い。

(事務局) 条例では企業にまちづくりへの参加をうたっている。

(委員長) これからも意見を出す場を継続させることが必要ではないか。中小企業振興条例が改正され、やる気のある企業をプッシュする方向になっている。アベノミクスの経済戦略も同様の方向である。プラン改訂の方向性におおむね賛同頂いたと思うので、連携強化についての具体的な意見を出していただきたい。

(委員) アベノミクスの成長戦略がとられている間に府・国の施策を活用すべきだ。すでに市へ話しているが、会議所と市の支援事業が重複しているので、産業会館内に産業プラザのようなワンストップ窓口を設け、相談や情報の窓口としたらどうか。

(委員長) 八尾市では1つの建物に商工会議所と市の産業政策課が入っている。岸和田市も視野に入れていただきたい。市民委員の方も意見をお願いする。

(委員) この委員会はプランの文章を考える場ということで、目的を勘違いしていたかもしれない。どうすれば強い岸和田産業をつくることができるか、考える場だと思っていた。基本理念を読んでもプラン策定後にどうなるのが見えてこない。むしろ、資料にある「強い岸和田の産業」の方がわかりやすいし、その上で「住みたい岸和田をつくろう」という方がわかりやすいのではないか。プラン策定後にどうなるかを考えながら動かなくてはならない。

(事務局) 理念をわかりやすくするという部分と具体的内容をどうするかという二面がある。プランとしてメッセージ性をアップしたい。

(事務局) この委員会は岸和田のまちをどうしていきたいか、住みたくなるようなまちにしていくにはどうするか、産業界の視点から意見を頂く場だ。産業界からのまちづくり参加の一つの切り口として、今あるプランにご意見いただけたらと思う。

- (委員) 大阪市は中小企業振興条例の制定をうけて、施策の重点分野を環境・エネルギー、健康等に絞っている。岸和田市ではどこに狙いを置くかを示していない。基本理念は定められているが、プラン策定後が見えてこない。
- (委員長) 基礎自治体レベルでは重点をおいて支援する産業を絞り込むことは難しい。岸和田市においても絞り込めないというのが実際のところだ。しかし、業種に関係なく共通課題があり、創業段階やジャンプアップ時の支援等、共通のシチュエーションをとらえて支援を絞る方法がある。プランは行政にとっての経営計画のようなもので、実行していかなければならない重要なもの。文章を作るだけでなく、こうありたいという姿を考えていきたい。
- (委員) 市のイメージをどうもっていくかを考えたい。例えば堺では戦国時代の自治都市の誇りがあり、岸和田は岸和田城をもっと誇りにして、基点としていくべきだ。ものづくりと岸和田城はマッチングしないため、自分の立場をはかりかねていた。SWOT分析から見ると、漁協では「いいものが獲れるが販売が難しい」、商業は「商品で個性が出せない」、農業は「組織だった農業ができています」とそれぞれの強みや弱みがあるので、ふるさと納税や一次産品を切り口としてマッチング、コーディネートしてはどうか。商店街の空き店舗を市が割安で提供するといった、一方通行なコーディネートというイメージがあった。「道の駅」で脚光を浴びている農業に準ずるような取組みをイメージして、コーディネートをしてほしい。
- (委員) 総計にも市民委員で入っていたが、いまひとつ論点が見えない。個々課題やSWOT分析についての議論ならば、もっと白熱した議論ができるだろう。医療法人徳洲会は全国的に地域に出ているという取り組みをして、小さな場を作っている。行政が大きな場を設定したら参加したい。
- (事務局) SWOT分析については全部まとめきれなくて、とりあえず前回と現状の変化を表すものとして示している。
- (委員) 岸和田には3つの漁業組合があり、漁獲高は府下No.1である。しかし近年漁業資源が減少している。これまで販売をやってこなかったのが、農業が愛彩ランドで活性化しているように、浜にも「海の駅」を設置して人を集め、活性化につなげたいと検討している。漁業も高齢化が進んでいるので、若者が岸和田に住みたいと思えるよう、子供を産みやすく、育てやすい環境づくりが必要であり、そういうことを市が支援できたらいいのではないかと。
- (委員長) ご意見の内容は、子供と産業、教育と産業という切り口で絡められたらいいと思う。

(委員) 部品(歯車)の製造を行っているが、客先の廃業や撤退などで、府外の機械メーカーに頼ることが多くなっている。新しい連携事業に参画する機会を狙っており、岸和田の「竹」をエンジン(綾誉)に施肥する取組みに注目している。組合に竹を伐採する機械を製造している企業があり、岸和田の資源を有効活用する地産地消の取組みに、我々も参画できないかと考えている。岸和田の竹を資源として、我々が伐採する機械を製造し、材木として使うようなデモケースができればよい。他の例では、とれたての美味しいタコが食べられるのにあまり広まっていないのは、宣伝が不足しているからではないか。

(委員) 竹は扱いが難しく、チップ化しないと製品化できない。集荷、チップ化、製品化をコンスタントに回す仕組みが必要だ。この委員会はマッチングの場にもなる。当社はここ10年ほど泉州特殊鋼さんと仕事をしているが、ロコミで知ったことが取引のきっかけだ。お互いに同じ土地に居るのにマッチングが難しい。岸和田の中で工場見学を通したマッチングや、事業継承のマッチングなどの仕組みができればよい。

(委員) 竹をカラーコーンとして利用する例もあるようだ。

(事務局) 神於山での対策が第一次の取組み。現在は丘陵地区で実施している。

(委員) 一度は途切れてしまった話だが、インキュベーションの話があった。農林漁商工いずれも、そこそこの規模があるのが岸和田の特徴なので、各産業の代表者を集めた場を再び設定してはどうか。

(委員長) 商業や観光まちづくりといった視点から発言頂きたい。

(委員) プランは言いつばなしの作りつばなし。意見も聞きつばなしになっている。進捗を把握し、見直すものは見直していかなければならない。さらに、プランの内容を動かしていくには、予算の裏付けも必要であることを頭においてほしい。岸和田市の中心市街地は旧法だが補助金を獲得して頑張っている。

(委員長) 松下委員は前のプランの組み立てから参加している。新しいネタ等あれば教えてほしい。

(委員) SWOT分析から漁業や工業団地の共通項が見えてくる。例えば、1つの団体をケースとしてみんなで詳細を掘り下げることで、大きな枠組みの課題が現れるのではないか。また、前プランで記載したバブルチャートや、地図平面上に資源が見える化することにより、新たな切り口が見えてくる。支援対象

の絞り込みは課題でしぼる方法と、ライフサイクルでしぼる方法があり、見える化することで議論ができる。市が操業環境の整備を行うにあたり、企業が攻め込めるオフENSEの状況を整備することと、市内で頑張ってもらえるディフェンスの環境を整備する両方がある。アイデアとしては地元調達も面白いが、域内の調達には受注関係等から限界があることと同時に、外貨を取りに行かなければならないことに注意しないと、域内だけで回してシュリンクしてしまう。面白い例として、だんじり加工業者が中古のだんじりを移出し、継続的に部品を受注するというビジネスモデルがある。

(委員長) 大きな予算的裏付けを取ろうと思えば可能な時代であると思う。議論の切り口に様々な示唆を頂いた。合宿をするくらいでなければ、時間が足りず語りつくせない部分がある。

(副委員長) おおよその見直しの方向性は妥当だがやり方がポイントになる。製造業に限らず、ワンストップ情報窓口の設置は実施すべきである。市と商工会議所だけでなく、その他の団体にもお金と人を出してもらうべきだ。場所は商工会議所の一部でよいので情報を一元化することが重要。「3:4:2:1」の4を引き上げる支援と2の転落を防ぐセーフティーネットが問題となる。両者はとるべき対応策が異なるので、支援側と事業所側の両方の情報を一元化する必要がある。その意味で、「岸ナビ」の情報を更新して活用することもできる。異業種連携はやり方の工夫をしないと失敗することが多いので、竹の例のようにプロジェクトベースで取り組むことがポイントだ。プロジェクトベースでぎくばらんに集まる場を設定してはどうか。その上でコーディネーターの役割が重要になるが、かさ上げする為のコーディネートと転落防止のコーディネートの両方が必要だ。その意味でも産業プラザのような場所で情報を共有して、産業団体ではないと知らないこともあるので、全団体が一丸で取り組まないと対策が難しい。

(委員長) 八尾は「バリテック研究会」の立ち上げから異業種連携が始まった。仕組み、やり方、体制、お金が揃わないと絵に描いたモチになってしまう。本日の委員会では基本的な方向性には賛同して頂いたので、今後はプレーヤーとプランを作りっぱなしにせず実現していく仕組みが大切になる。今後の進め方を事務局より案内して頂きたい。

(事務局) 次回の委員会では、本日の意見を整理したうえで、現状分析と一步踏み込んだ見直し案を示したい。

(委員) 委員会の役割はまとまりが無い意見を出すに留まって良いのか。委員会で見直しの内容をまとめる必要はないのか。

- (委員長) 今日のテーマは大きな方向性を決めたいので、プラスアルファを提案するものだ。
- (事務局) 事務局として市が頂いた意見を整理し、現行プランと照らした上で、見直し案に反映・修正し、また委員に揉んでもらってプランを作っていく。
- (委員) 立ち位置が分からなかったもので、そのような立場であれば安心して発言できる。
- (委員) 少しでも各業界からの意見が組み込まれるなら、ということで協力している。
- (事務局) こういう機会でないとか各界トップの方に意見を頂くことは難しく、貴重な場であると考えている。
- (委員) 本音を言えば、市長が委員会に参加し、「岸和田市をこういうまちにしていきたい」と語ってくれるなら分かりやすく、我々も力を貸したいと思うだろう。
- (委員長) 委員へは次回の委員会までに個別にフィードバックするのか。
- (事務局) フィードバックの方法は、資料整理作業の進捗との兼ね合いもあるので、おって連絡する。
- (委員) 八尾市や池田市、東大阪市などは1年に1回マイドーム大阪で中小企業フェアをやっているが、岸和田でもやっているのか。
- (事務局) 浪切ホールで開催している。
- (事務局) 次回の委員会は7月中下旬の開催を予定している。本日も予定が分かる委員はシートに記入の上、提出をお願いしたい。

(以上)